



3Dプリンターで造形中の柱に触れる広島大の学生(手前)たち

## 安芸バイパス工事で広島大生ら 最先端の建設技術学ぶ

広島市安芸区の国道2号安芸バイパス(7・7キロ)の工事現場で17日、広島大の学生たちにデジタル技術を用いた最先端の建設技術を学んでもらう見学会があった。同大と工事を請け負う加藤組(三次市)などは本年度、国事業の一環で建設現場の生産性向上を目指す試みをしており、工事主体の国土交通省広島国道事

務所(南区)が企画した。

試みの一つに、構造物を3Dプリンターで造って従来工法との強度の違いなどを調べる取り組みがある。広島大の学生と大学院生の計13人が参加した見学会では、作業員が3Dプリンターを操作。六角形がらせん状に積み上がる複雑な形状の柱(幅24センチ、高さ50センチ)を、モルタルを原料に30分で造形した。

加藤組の原田英司土木部長は「経験が浅くても短時間で造れ、形状も自由だ」と説明した。大学院先進理工系科学研究科修士課程1年の厚朴璃子(23)は「研究室では同様の作業に20人がかりで何時間もかかる。早く普及してほしい」と期待していた。(城戸良彰)